

不登校ゼロ運動「微笑みアクションプラン」

小野市教育委員会

不登校生への支援

1

児童(生徒)理解

(1) 家庭訪問のポイント

組織的・計画的な訪問
学校復帰プランの策定
コミュニケーションを重視

(2) 教育相談で信頼関係

受容と共感で理解
(「がんばったんやなあ」)
児童(生徒)に選択権
(ゴールを自分で決めさせる)
必要によりメール送受信

(3) 「おの検定」の活用

1日10分読み・書き・計算
音読・スピード計算で脳トレ
計算ソフトの活用

2

保護者と連携

(1) 適応教室の啓発

脳トレーニングの実施
(計算ソフトの活用)
学校と連携強化(家庭訪問)
「やまびこの郷」と連携

(2) 教育相談の充実

SCと連携
守秘義務の徹底
丁寧で柔軟な対応

(3) 「親の会」の案内

必要により組織(SCの支援)
関係機関と連携強化
ネットワークづくり

3

学校組織力の強化

(1) 居場所づくりの確保

部分復帰から完全復帰へ
適応教室と連携
脳トレーニングで育成

(2) 不登校対策会議の開催

不登校ゼロ運動の目標設定
担当者のリーダーシップ
養護教諭、SCと連携

(3) データ管理

月1回のデータ報告(分析)
担任 担当者(管理職) 市教委
年間10日欠席は要観察(小)

不登校生を出さない対策

1

児童(生徒)理解

欠席者早期対応プラン

欠席1日目は学級担任が激励電話
・家庭から連絡のある時、確実に担任へ報告
・家庭から連絡のない時、担任は始業前に電話
2・3日目は学級担任が家庭訪問
(家庭からの連絡の有無に関わらず)
4日目以降はチームを組んで組織的対応
長期になる場合も適切な家庭訪問

情報の共有(担任・担任外)

- 遅刻や早退の様子・学力の低下
- 授業中の態度
- 友人関係の変化
- 服装の乱れ
- 部活動の欠席
- 宿題の忘れ
- いじめの兆候

2

保護者との連携

基本的な生活習慣の確立

・寝る時刻、起きる時刻、朝食時刻の固定

家庭学習の習慣化

・1日10分の反復練習(「おの検定」)

アカウントビリティ

・学校(学級)通信、HP、連絡帳で情報発信

「おの検定」のシステム

家庭：テキストで毎日学習
学校：「おの検定」で受験
市教委：採点・認定証・分析
学校：授業でフィードバック
学校：何度も再チャレンジ
市教委：放課後学習支援

3

学校組織力の強化

小中連携不登校対策会議(月1回)

脳科学と不登校の研修
事例研修(検証と復帰プラン)
新たな要因の分析と対応

新たな要因

- 軽度発達障害との関係
- いじめ問題との関係
- 児童虐待との関係
- 養育放棄の問題
- 生徒指導上の問題